

PHP用語の淵源について

松下理念研究部長 佐藤 悌二郎

キーワードの初出

「繁栄」「平和」「幸福」をはじめ、「宇宙根源の力」「素直な心」「生成発展」「自然の理法」「衆知」「主座」「王者」などは、PHP理念、松下哲学を構成する重要なキーワードです。そしてそれらのなかには、辞書にも載っていない珍しい言葉や松下幸之助が発明したと思われる言葉、あるいは一般に認められている意味と違う意味内容で使われている言葉があります。

ところで、それらの言葉や考え方は、いつ、どのような契機、過程を経て使われるようになったのでしょうか。

これについては、例えば「素直な心」に関しては、大江副主任研究員の詳細なレポートがあります(「松下幸之助と素直な心」その成立過程を探る「研究レポート」一九九三年度版)、他のキーワードについては、これまでそういった観点からの研究はほとんどなされてきていません。しかし、それらについても松下がいつから使うようになったのか、なぜその言葉を使ったのか、どこでその言葉を知ったのか等々について整理しておく必要があるのではないかと考え、その作業を現在少

ずつ進めています。「」の欄では、これからその経過なり結果を適宜紹介していきたいと思えます。

今回は、その一端をお伝えしましょう。

辞書にない「主座」という言葉

例えば、「主座」という言葉があります。この言葉は、松下が日本の伝統精神としてあげている「衆知を集める」「主座を保つ」「和を貴ぶ」の三つのうちの一つに出てくるものですが、『広辞苑』にもないきわめて特殊な言葉です。この言葉が初めて登場するのは、昭和四十年の『実業の日本』三月一日号と『PHP』三月号においてです。両誌に連載された「あたらしい日本・日本の繁栄譜2 普遍性と国民性と民族性」のなかで、「日本人は、チョンマゲを切ることから学問、技術、宗教にいたるまで何から何まで教えられながら、にもかかわらず自ら主座を保つというか、主人としての地位を厳然として維持していた」とあります。

なぜ「主座」なのか。どこからこの言葉が出てきたのか。どこでその言葉をお知ったのか。みずから造ったのか。今となつては尋ねることとはできませんが、これから、「この「主座」という言葉も含めて、PHP理念のキーワードについて、その意味内容や淵源、出所などを、残された資料から辿り、核心に迫ってみたいと思えます。